

「災害対応は上からではなく、『民の自発性』に委ねよ」 第2次能登半島地震ボランティア報告
2024年1月22日
(社)神戸国際支縁機構
代表 岩村義雄

主題聖句: 「地を見渡すと、見よ、苦難と闇 苦悩に満ちた暗黒、そして追放の暗闇」(イザヤ 8:22 『聖書協会共同訳』)。

<序>

臨んだことがないような地割れ、隆起、荒廃の孤立の闇が、三方海の能登半島を襲いました。2023年1月5日に見た暗闇の輪島市は不気味なベールに覆われていました。どこにいるかナビゲーション、携帯、Wifiも不自由でした。つまり通信手段が講じられないのです。交通手段も国道が寸断されているため脱出もできないのです。新潟県の沿岸部に「津波警報」が発令。地域によって2メートルを超えたそうです。しかし、県内の沿岸部にある12の市町村の内、海がすぐそばにある糸魚川市、村上市は、「避難指示」を出していませんでした。各メディア用いられる学者の理論的枠組みの限界を示していました。

5日早朝、5時15分、第7次第シリア・ボランティアから関西空港に帰国した足で、石川県に急行しました。いったん支援物資を積み込むため、神戸市にある神戸国際支縁機構の事務所に戻って、能登半島北端に向かいました。

ボランティアこそ、世の中の既成の価値観や前提を切り崩す力があります。知識の集積や記述よりもむしろ、感情や意思に基づく発言は、臨場感もあり、リアルに思いを伝えることができます。

民族単位でもなく、また、国民単位でもなく、一人の人間が体験してきた苦難の中からの叫びだからです。一人の人間の人生や生活に関する語りは、歴史と結びついた時に初めて、真理性を帯びてくるでしょう。

中日新聞
2024年(令和6年)1月17日

1・17「次は助ける番」

石川県輪島市河井町で、倒壊した家屋に向かって手を合わせる男性。阪神大震災を神戸市垂水区の自宅で被災し、2001年にボランティア団体を立ち上げた。輪島市内で炊き出しなどの活動をしている。16日(大橋樹人撮影)、記事1面

23面に神戸新聞読者から励まし



『中日新聞』(2024年1月17日付 第一面)。

目次

(1) 寄り添う	
a. 参加者	3
b. 田圃(たんぼ)・里山・里海は帰ってこない	4
c. 珠洲市の津波	5
(2) 被災者だけでなく、個を幸福にしない統制	
a. 隆起が漁業関係者の生活権を奪った	6
b. 隆起は「液状化」でないなら「流体化」なのか？	8
c. 報道災害をもたらす指導者	9
(3) ボランティア，メディア，地方行政への統制	
a. 自助，自己責任を押しつけ助け合わない社会に	10
b. 珠洲になくてよかった 志賀(しか)は止まっていたよかった	11
c. 計千食分の炊き出し	12



輪島中学校での炊き出し 2024年1月16日夕食 500食

(1) 寄り添う

a. 参加者

神戸国際支縁機構は、阪神・淡路大震災¹(1995年1月17日)、東日本大震災(2001年3月11日)、熊本・大分地震(2016年4月14日)など、震災の現場に寄り添ってきました。四半世紀以上、被災現場に駆けつけているとはいえ、ゴキブリのような働きです。決してプロ集団ではありません。今回、車は3台です。医療班3名を乗せた車、参加者には三浦匠医師(25歳)、長岡利恵子看護師(54歳)、青手木 努さん(45歳)の3名です²。次に、大阪学院大学外国語学部准教授であったM.シヤクルトンさんが食材を主に搭載した車を運転しました。先頭に、道に明るい村上裕隆代表(32歳)が運転する10人乗りハイエースです。第7次シリア・ボランティアから筆者(岩村義雄)が2024年1月5日午前5時15分に帰国するやいなや、水、食料、暖房関連などを積み込んで村上代表と二人で、能登半島の珠洲市、輪島市を目指しました。機構は3.11以降、現地に入り、炊き出し、傾聴ボランティア、「田・山・湾の復活」³に仕えてきました。復旧、復興には自発的に取り組み、国、県などから助成、交通費の割引の特典を得ず、無償でかけつけてきました。2014年からはじめた働きに神戸市東遊園地(神戸市役所隣)で路上生活者への炊き出しがあります。それらの活動に対して、生活協同組合コープこうべ、フードバンク関西、神戸市社会福祉協議会、寺社、「カヨ子基金」からの支援を受けてきました。そうした協力関係があったからこそ、炊き出しを休まず継続できました。

輪島市役所の依頼千食分の炊き出しに必要なプロパン、大鍋、食材などを搭載。2024年1月16日、機構の10人は神戸の事務所を出発しました。佐々木美和事務局長(31歳)が10人の必要、健康、3台の車両との連携などを顧みる任を担いました。



出発前 2024年1月14日 左端 送迎の仁田勝大氏 神戸国際支縁機構本部前

¹ 阪神・淡路大震災 <https://www.christiantoday.co.jp/articles/25079/20180117/great-hanshin-awaji-earthquake-23-years-pastor-iwamura-yoshio.htm>

² 神戸国際支縁機構の維持会員である松岡泰夫氏(番長診療所所長)の紹介。機構が後見人ボランティアに取り組む中で、平素協力してくださっている。

³ 『石巻かほく』つつじ野 (2017年10月3日付)。

b. 田圃(たんぼ)・里山・里海は帰って来ない

現地にはゴミを捨てず、持ち帰るように徹底しました。ボランティアの基本です。参加の2名は女性です。看護師と大学教員です。神戸国際支縁機構はこれまで宿泊にホテルなどを活用しないでやりすごしてきました⁴。空手道場、宗教施設、車中泊で過ごしてきました。

能登半島の七尾付近から北上するには水、トイレ、食事はすべて自分たちが持参したモノで賄います。ガソリンスタンドは少なくなり、コンビニはすべて閉店です。携帯用簡易トイレを活用します。



道中の食事。2024年1月15日 珠洲市。

一方、被災者はトイレを我慢しています。水分を取らずに脱水症状を引き起こす危険性も懸念されます。被害の大きい県北部にある珠洲市^{いずみやま すひろ}の泉谷満寿裕市長ら被災地の首長は、オンライン出席する県の対策会議で、連日、避難所のトイレを巡り悲痛な叫びを発しておられました。輪島市の坂口茂市長は会議で「ゴミ袋の中に用を足し、1カ所に捨てている」と現状を報告し、衛生環境の悪化を懸念されていました。今回の地震は私たちが食べることに赤信号を灯しました。最も深刻な危機が登場したと思われま

す。1月5日の夜、石川県輪島市白米町^{しろよねまち たなだ}にある棚田^{せんないだ}を訪問しようとした。しかし、第1次報告にも書きましたように、山の崩落によって、国道249号線は不通でした。日本海に面して、小さな田が重なり海岸まで続く絶景は有名です。この棚田は千枚田です。栽培は機械ではなく昔ながらの手作業で行われます。私たち神戸国際支縁機構がとり組む「田・山・湾の復活」と無縁ではありません。その千枚田が地震によりずたずたに亀裂が入ったのです。「白米千枚田」区長の大西正浩さん(63歳)のつぶやきです⁶。「ひっどいこっちゃね。水がないと、トイレもなんもできんわね」。

毎月のように訪問している千葉県館山市布良^{めら}に住む小谷登志江さん^{おおやま}に連絡したところ、「能登の方はホントにお気の毒ですね。布良の被害とは比べものにならない。ここでも救援金を募っていますよ。鴨川市平塚にも『大山千枚田』があります」と言われました。

⁴ 拙論「異邦人との共生」(第1次モロッコ地震災害ボランティア報告 2023年11月7日-15日 6頁)。

⁵ 白米千枚田(しろよねせんまいだ)は、世界農業遺産 world agricultural heritage に登録。農林水産省の「つなぐ棚田百選」や文化庁の「国指定文化財名勝」にも指定されている。「田植えしたのが九百九十九枚あと一枚藁(みの)の下」と古代から歌い継がれてきた。

⁶ 『北國新聞』(2024年1月5日付)。

⁷ 拙論「第2次千葉災害ボランティア報告書」(2019年9月2日~10月1日)“1階の天井もひどい有り様です。小谷登志江さん(当時77歳)は館山市布良(めら)で独居暮らしでした。その年の4月に夫が急逝なさいました。2階建ての2階部分は吹き飛ばされ、すべての家具、調度品、衣類は何もなく、まるで新居みたいにならんとしていました。ただし、どの部屋もドロに覆われていました。電気、ガスはとまったままです。行くところがないので、一階のひとつの部屋をなんとか住めるようにするしか逃げ道はありませんでした。”

日本は昔から平でない山を耕し、昔から山あいへばりついてコメを作ってきたのです。段々畑は傾斜がきつく耕作単位が狭いのです。田んぼのへりに石を積み重ねるといふ根気を伴う先祖伝来の棚田です。大型農耕機械は持ち込めません。手で刈りにくい隅の部分に世話をし、守り継いで来たのです。

2017年8月21日、福岡県朝倉市松末^{ますえ}で樋口實さん[1940-2023]^{おとし}は乙石川流域などを案内してくださいました。「ここあたりも田んぼがあったのに」と嘆息しておられました。棚田は、食料を栽培するだけではありません。洪水防止、水源のかん養、土砂流出防止、保健・休養の場など様々な機能があります。日本人が延々と古代からたいせつにしてきた農法です。

能登半島地震は日本の限界集落の存続が限界であることを私たちに知らしめたのではないのでしょうか。国の政治家、官僚、企業経営者はお金で解決しようとしますが、発想に古来の先人たちとの乖離が生じています。どんなにトラクター⁹、コンバイン¹⁰、ドローンによる農薬散布が全国的に普及したとしても、「農業後継者の不足」、「田畑の維持の困難」、「集落の維持の困難」という越えられない絶壁が立ちはだかっています。にもかかわらず政権与党は食料安保より軍事安保にあせっていませんか。その自覚がない為政者は裸の王様としか形容できません。

c. 珠洲市の津波

災害に対する復旧、復興、再建は迅速性が求められます。一般的に家屋などの下敷きであれば、72時間¹¹以内の救出が生命存続の鍵です。2018年9月6日夜3時7分、マグニチュード6.7の北海道厚真地震(胆振東部地震死者42名、負傷者762人)にかけつけた場面とよく似たケースです。海外で日本の大きな災害を聞くと、帰国するやいなや被災現場に食料など炊き出しの用意をして急行しました。5年前の厚真災害報道についても、いまだに検証されていません。それは現地の被害が「液状化」なのかどうかです。後半で詳述します。

今回も筆者はレバノン国バイルートで能登半島地震ニュースについて知りました。日本の気象庁は1月1日午後4時12分、推定5メートルの大津波警報を発令しました。NHKも「直ちに高台などへ避難するよう」にと促しました。地震発生から72時間経過したのは1月4日です。悲しさで気もそぞろで、1月5日午前5時15分、筆者は関西空港に帰国しました。空港で購入した新聞記事には、“NHKは、輪島市で1m20cm以上、金沢港で90cmの高さの津波が観測されたと伝えて”いました。空港に持って来てもらった朝日新聞、神戸新聞、および毎日新聞デジタル版は、NHKと同様でした。手にしていた数種類の記事は珠洲市宝立町春日野には言及していませんでした。内心、1日のBBC、NHKは過剰報道だったのではないか、と思うようになっていました。しかし、1月15日に珠洲に足を踏み入ると、眼下に広がる海岸線は、12年前に見た宮城県石巻市渡波^{わたのは}の無残な光景そのものでした。車が何台も積み重ねられ、電柱は曲がっていました。つまり、黒い津波に町が呑み込まれていたのです。¹²



⁸ 拙論「第3次九州北部水害報告」(2017年7月5日) 豪雨 死者40名不明2名。

⁹ 馬や牛を用いていたのが、トラクターに代わった。糞尿がなくなったため、化学肥料を用いるようになった。

¹⁰ 穀物の収穫・脱穀・選別をする農業機械。

¹¹ “Emergency Medical Services Intervals and Survival in Trauma: Assessment of the “Golden Hour” in a North American Prospective Cohort” Published: September 24, 2009 <https://doi.org/10.1016/j.annemergmed.2009.07.024>

¹² 動画をご覧ください。 <https://youtu.be/Sc6EoQbk-vE>



珠州市宝立町春日野 2024年1月15日



1月1日16時10分頃 4.5メートルの津波。

東日本大震災との大きな違いは隆起による地面の亀裂、道路の損壊です。ゴースタウンと化した家に液晶テレビなどを取りに帰っておられた沢村亮一さん(52歳)からも耳にしました。珠州市上戸町南方の広谷順子さん(70歳)から日常生活での新鮮な野菜、肉などは近隣では入手できないこと、故郷の北海道をなつかしんで釧路弁で「あづましくない」(満足してはいない)、と本音を吐露され、ご主人清治さん(85歳)の病院通いも寸断された不自由さを訴えておられました。

どの集落も、よそには徒歩でしか行けません。「孤立集落」になってしまったのです。

地殻変動、隆起による砂浜の沖への拡大、道路の亀裂、道路のマンホールの隆起、河川の水量減少など手の付けようのない被害です。強い津波が海岸を侵食し、船を持ち上げ、車を押し流しました。現場では被害のない家を見出すのはむずかしいでしょう。

津波の高さが1.2~1.5メートルという被災情報は不正確であったと言っても過言ではありません。奥能登にも支局がある石川ローカルの各局を除いて、TVでの情報発信というのは限られてしまっていたからです。

(2) 被災者だけでなく、個を幸福にしない統制

a. 隆起が漁業関係者の生活権を奪った

1月2日、午後8時頃、国土地理院は輪島市で最大約4メートルの地表の隆起があったと発表しました。輪島市の朝市は西側の川と北側の海に挟まれたエリアでした。朝市通りの約200戸が延焼しました。消防車は川から水を吸い上げて消火活動をしました。しかし、水が枯渇していたためホースからはほとんど水は出ませんでした。なぜでしょうか。地面が隆起していたからです。

地震の隆起などにより能登半島の海岸線が約90^キにわたって「陸化」しました。輪島市門前町黒島町付近で最大約240^ヘの陸化が確認されました。能登半島全域の調査範囲内で約4.4平方^キの陸化が確認されました。すると石川県の面積が福井県を上回った可能性があります¹³。

能登半島は豊富な魚礁があります。半島北側の「外浦」と呼ばれる海域ではこの時期、ズワイガニ、アカガレイなどの漁が最盛期です。石川県の漁獲高は2021年、全国で19番目でした。能登

¹³ 『北國新聞』(2024年1月20日付)。

地域は農・林・漁が基幹産業であり、人口の一割が従事しています。そこに国内の観測史上、最大規模の地盤隆起、海底が露出し、船の出入りができなくなりました。69 漁港のうち 58 漁港で被害がありました。現在分かっているだけでも石川県の 146 隻以上の漁船が転覆、沈没、26 隻以上が座礁、流出。15 漁港は防波堤、港湾内道路、隆起のため漁船が出入りできません。

2018 年の県内の漁業就業者数は 2409 人。10 年前と比べて 4 割減っています。その半数超が 60 歳以上です。県漁協すず支所高屋出張所の吉田峰生所長(65 歳)は「漁師は高齢者が多い。何年も漁に出られないなら、廃業する人も多いのではないか」¹⁴、と。

地震学者である宍倉正展[1969 年生]氏の研究チーム「産総研(産業技術総合研究所地質調査総合センター)」は 1 月 8 日、石川県輪島市門前町の鹿磯漁港沿岸部数百メートルを調査。すると防潮堤が 3.8~3.9 メートル隆起していることが判明しました。宍倉氏は「日本で科学的な地震の観測が行われるようになって以来、最大の海岸の隆起である」、「能登半島周辺では過去 6000 年間で『最も大規模な隆起』の可能性がある。今回の地震によって、4 段目(の海岸段丘¹⁵)が新たにできた」¹⁶と指摘しておられます。カキ、ゴカイが壁面にへばりつき、海面より上に出ています。また日本地理学会が航空写真や衛星写真を分析したところ、沈降した場所は、半島東側のごく一部に限られていました。上空から輪島市門前町黒島町の海岸を見ると、黒島漁港の中には海水がなくなり、海岸線は消波ブロックよりも沖合にありました。同市大沢町の大沢漁港では、水の引いた港内に漁船が残されていました¹⁷。気象庁は 4 千年分の隆起だと述べました。

筆者の隆起についての知識は、宍倉氏が育った千葉県房総半島における隆起を目撃し、2019 年から関心をもつようになりました。なぜならインドネシア国パル¹⁸で起きた地震、隆起、流体化¹⁹を目撃したことがきっかけになっているからです。大規模流体化、隆起。前述の館山市布良の水害と関連しています。千葉県館山市布良に 2019 年 9 月 9 日台風 15 号が襲ってから毎月のように訪問しています。地殻変動によって隆起²⁰して現在の布良があることを同年に「台風研究会」(故豊崎栄吉[1928-2020]主宰)に出席した際、同席した鈴木馨(かおる 1932 年生 元 TBS ディレクター)氏から「隆起」について教えてもらいました。鈴木さんはご自宅に隣接する家が断崖の上にあるのを示しながら、3000 年間に頻発する地震によって相浜、布良海岸段丘を作り上げてきたと、断層を見せながら説明されました。興味深いことに、能登半島の図形と館山市の図形は相似しています²¹。したがって、今回の能登半島地震でも「液状化」ではなく、「流体化」という言葉に訂正すべきです。隆起して固まっている状態を液状化によると説明するのは科学的でしょうか。

¹⁴ 『毎日新聞』(2024 年 1 月 21 日付)。

¹⁵ 「海岸段丘」海岸に沿って広がる階段状の地形。地盤が隆起したりしてできた平坦地。河川や海より高い位置にある。

¹⁶ 『テレ朝 news』(2024 年 1 月 16 日付)。

¹⁷ 『朝日新聞』(2024 年 1 月 16 日付)。

¹⁸ 2018 年 9 月 28 日 18 時 マグニチュード 7.5。津波約 11.3 m。約 4000 人死亡。パル地震の筆者の報告(『産経新聞』、『毎日新聞』2018 年 10 月 30 日付)。筆者はジョコ・ウィドド[1961-]大統領と共にいるのを現地テレビ(2018 年 9 月 30 日)で報道された。

¹⁹ 現地、および日本の報道では一貫して、流体化ではなく液状化である。

²⁰ 元禄地震 1703 年 11 月 23 日午前 0 時頃発生。マグニチュード 7.9~8.2 と推定されています。全壊被害が 22,424 軒、死者数は 10,367 名。元禄津波は関東大震災(1923 年)の津波より 3~4 倍の規模でした。千葉県館山市布良は 6 メートル、相浜(あいはま)は被害状況から浸水深は 5~6 メートルの津波被害+地盤隆起 4.4 メートルを加えると、津波の高さは 10 メートルに達したことになります。裏付ける記録として、2019 年 9 月 17 日に訪問した相浜の蓮寿院(れんじゅいん)に津波供養塔がありました。「元禄十六癸未十一月廿三日因津浪於当所 死亡男女老若八十六人之者 正徳五乙未十一月廿三日当十三回忌故彼亡者……房州安房郡相浜村立之施主武州江戸尾張町 浅田六兵衛」。ちなみに、関東大震災の津波は漁船を田畑に押し上げ、67 戸が流失。津波の高さは 9 メートルであった。

²¹ 『館山まるごと博物館』(「安房文化遺産フォーラム」愛沢伸雄、池田恵美子、粕谷智美)によると、逆さ地図で日本列島を見ると、頂点に位置する房総半島と能登半島は、S 字(タオ・陰陽)形に対峙して位置することが分かる。

b. 隆起は「液状化」ではないなら、「流体化」?

海を埋め立て、人口島を造った地盤は、水分が多いため液状化します。地震の揺れによって地下の水が上がってくるため発生します。阪神・淡路大震災の時、ポートアイランドと、六甲アイランドや沿岸の埋め立て地などで起きた現象です。

筆者は学者でもなければ、被災地で寄り添うボランティア道に明け暮れているまったくの素人です。世の中の既成の価値観や前提を切り崩す考えは、現場主義の体験から身についた思考法です。知識の集積や記述よりもむしろ、現地での人々の息づかい、感情や意思による発話をたいせつにする習慣があります。思いこみ、記憶が先入観になり、間違ふこともあります。しかし、被災地、紛争地、未知の土地では鮮烈な印象を受けた内容は臨場感そのものです。リアルに「場」を伝えることに細心の注意を払ってきました。

「液状化」と聞けば、固まるのではなく、不安定に揺れ動くという印象をもちます。1995年、人口島の鉄筋コンクリートのマンションが不安定になり、揺れる状態をTV放映していました。

2018年9月6日夜3時7分、厚真町で震度7(地震観測計は針を振り切っていた)は死者42名、負傷者762人の犠牲をもたらしました。どの報道も「液状化」という学者の意見を報じていました。能登の液状化について報道する学者、専門家、気象庁の発表に首をかしげました。阪神・淡路大震災の人口島や、東日本大震災の千葉県浦安市の液状化被害とは異なるからです。

厚真町の桜丘地区で2018年9月10日に会った今多俊和[いまた 1936-2019]氏と懇意になりました。私たちは今多氏所有の山林で伐採などのボランティアに仕えました。今多氏の工場事務所で寝袋にくるまり宿泊しました。合間に厚真ダム、建設中の厚幌ダムに案内してもらいました。その際、直径1メートルほどの流木が道路脇に山積みとなっていました。ダム放流の明らかな証拠が残っていました。

厚真地震も決して「液状化」ではないと土建もなされたことがある今多氏も言われていました。土地が隆起し、道路は寸断していました。筆者は「流体化」²²と報告書を書きました。キリスト教メディア²³もその専門用語を掲載しました。翌年インドネシア国パルの災害現場で目撃したのは地平線が樹木や家屋を載せたまま移動している場面です。日本のメディアは液状化と報じていました。

風邪気味だと奈良県出身の妻カヨ子が²⁴葛にお湯を注いで、かき混ぜて食べさせてくれたことがありました。葛は解熱作用があるからです。ゆっくりかき混ぜると失敗します。すばやく力を込めてかき混ぜるとかたまります。仮定ではありますが、短く強い振動が土地を隆起させる作用と関連があるのではとひらめきました。岩盤層が持ち上がったのは、プレートと表層の間にある水脈が地震の激しい揺れによって、圧迫された水、土などが1分ほどで塊、つまり糊化²⁵したということではないかという仮説です。新しい固形化した層として地表に隆起したと考えられないでしょうか。客観的な論証はできません。災害地で培った筆者の着想にすぎません。マンホールが地表から飛び出したのも、液状化では説明できません。片栗粉で説明するダイランシー現象もあてはまりません。「岩村現象」として証明する方が現れるのを期待しています。売名行為のためではなく、「防災」⇒「災害」⇒「復興」に取り組むひとりとして、ただ指をくわえて待つわけにはいきません。

²² 浮いている粒と粒がぶつかり合い、固くなって固体の状態に変化する。急激な外力を加えられたときは固体のように振る舞う。この現象を「ダイランシー現象」と言う。能登半島や房総半島の千里浜で自動車を走らせてもタイヤが沈まずにちゃんと走れるのも速度により固形化するからであろう。https://www.water.city.nagoya.jp/uruoi_life/category/learn/145187.html
名古屋市上下水道局 うるおいライフ。ダイランシー現象で説明に用いる片栗粉と異なり、葛はお湯を注いだけでは固まりません。

²³ <https://www.christiantoday.co.jp/articles/26110/20181010/1nd-earthquake-volunteer-report-3-yoshio-iwamura.htm>

²⁴ 秋の七草「葛」の根は漢方薬に用いられるカッコン(葛根)。葛湯に用いるのは葛の根の中のデンプンだけ。熱湯を手早く加え、直ぐにかき混ぜないと固まらない。一方、「片栗粉」はジャガイモのデンプン。

²⁵ 「糊化」とは、デンプンを水、加熱、速度を加えるとデンプンが糊(のり)状になること。

厚真町吉野地区の山は地震により、36 人を窒息死させました。土砂はカラマツをなぎ倒しました。莫大な水量を必要とする日本一の工場地帯²⁶も水がなければまったく機能しません。苫東厚真火力発電所の停止、「ダムが原因」による土石流の爪痕は札幌市から苫小牧市まで広域に及んでいました。コンクリート製ダムには砂防ダム、治水ダム、土砂ダムがあります。いずれも自然の生態を破壊する元凶と言えます。「実に、被造物全体が今に至るまで、共に呻き、共に産みの苦しみを味わっていることを、私たちは知っています」(ローマ 8:22)。聖書学者パウル・ティリッヒ [1886-1965]は、「自然は人間の意志と恣意に完全に服従させられてはいないか。この技術文明、人類の高慢が、元の自然、大地、動物、植物の甚大な荒廃をもたらしてきた。それは純粋な自然を小規模に制限してきたのであり、あらゆるものを支配と無情な開発で占拠してきたのである。さらに悪いことに、我々の多くが自然と共生する能力を失ってしまった²⁷」と警鐘を発していました。筆者は経済至上主義への警告だと発信しました²⁸。

c. 報道災害をもたらす指導者

1月6日午前8時、倒壊した五島屋ビルの前で、NHK 神戸放送局の山下剛史カメラマンと出会いました。「何をしておられるのですか」、思わず二人共同じ言葉がとっさに出ました。報道関係者が輪島市、珠洲市など北端に入り出したのは、1月6日が皮切りのようでした。河井町朝市通りは立ち入り禁止になっていませんでした。午前11時頃、制限が始まりました。その前に、傾聴ボランティアで第1次の報告でも言及しています方々と出会いました。メディア関係者が次々と到着するころには朝市通りは進入禁止になっていました。

日本基督教団輪島教会におられた新藤豪牧師に河井町を案内していただきました。

「輪島朝市はどんなところですか?」「輪島朝市は、日本三大朝市に数えられていて、その始まりは平安時代にさかのぼり、神社の祭礼日に魚介類や野菜などを物々交換したのが起源だそうです」と。「それから、約1000年にわたって市が開かれているって」。すっかり輪島のスポークスマンになれるくらい地域に精通しておられました。

「365日、朝市はやっているのですか?」「毎月第2・第4水曜日と年始が休業ですね。そのほかの日はやっていて、『こうてくだ(輪島の方言)』で声日本各地からいろんな人が来ていて、けっこう活気がありますよ」と。100軒から250軒ほどの店があり、「鮮魚を売っている人が教会の玄関に入れておいてくださるんです」。名物「蒸しアワビやサザエが人気あります」。「輪島塗²⁹も焼ける前のここあたりでも売ってましたよ」と指をさした建物は原形を留めておらず、自動車も焼けていました。

第2次の1月14日、訪問した珠洲市に岸田文雄首相は珠洲市立緑丘中学校に正午ごろから約30分滞在したと耳にしました。ただ校舎1階だけをのぞいただけと毎日新聞は報じていました。同行した馳浩^{はせひろし}石川県知事が「一日でも早く仮設住宅があった方がいいということですね」と問うと、子育て世代の女性から「私たちの意見は違います」との厳しい声があがりました³⁰。機構が炊き出しを依頼された輪島市立輪島中学校も岸田氏は訪れました。東京に戻り、伝統工芸復旧への財政

²⁶ 「苫東」(とまとう)は北海道苫小牧東部に位置する日本最大の工業基地の工場用水のために厚真ダムがある。日本の経済成長、発展のためにはダムは欠かさない存在である。拙論「技術至上主義は自然災害をもたらす」(— 第1次北海道地震ボランティア— 2018年6-7頁)。

²⁷ “Nature, also, Mourns for a Lost Good” Tillich *The Shaking of the Foundations*, Charles, Scribner’s Sons 1948 p.79.

「人災なら天地に生命を戻すことが人間の務めである」と言った田中正造[1841-1913]や、神学者のパウル・ティリッヒ[1886-1965]も被造物が有する命が自然界にあると述べる。拙論「キリスト教と復興」(関西学院大学 2021年4頁)。

²⁸ 拙論『キリスト新聞』(2018年10月1日付)。

²⁹ 石川県輪島市で生産される木製漆器。1977年に全国の漆器産地で初の国重要無形文化財(工芸技術)に指定された。江戸時代に技法が確立され、北前船で販路を全国に拡大したとされる。おわんや重箱、棚、茶道具など製品の種類は多く、漆を塗った上に金銀などの粉で絵を施す沈金や蒔絵(まきえ)の美しい装飾が特徴。

³⁰ 『日本経済新聞』(2024年1月14日付)。

支援を政府は発信しました。権力者は復旧、復興、再建にお金を出せばよいという、近視眼的な発想しかないのでしょうか。

短時間の訪問、被災者の健康、疲労、先行きの不透明さに対して、一国の首長がすべきことは、安心させることではなかったのでしょうか。一時的に金沢市などに避難した人々が元の状態に戻り、コミュニティが復活し、近隣の人たちとのつながりが回復するために、まっさきにすべきことは被災者たちが民の心の中にホッとするものを考えるべきです。お金ですべての問題を解決する施策は優先すべきではないはずです。まずは「死の闇」から「いのちの希望」がなければ空しいです。いくらハコモノがあっても10年後、30年後に、地殻変動によって再び瓦解するかもしれません。地球温暖化、近隣原発メルトダウン(炉心熔融)し、被ばく、放射能汚染、軍拡競争に日本の為政者が取り憑かれたように推進している政策を停止する判断を見せる機会です。世界は、平和ではなく、ロシア・ウクライナ戦争、イスラエル・パレスチナ戦争の悲惨な局面にあります。また日本は自分たちの国のトップが銃撃される状況を、子どもたちにどのように説明できるかが問われています。震災、戦争、食料を得る農地、漁場、里山里海は損なわれました。心に安らぎがありません。未来への展望も抱けません。大人、制度、国際機関はあてにならないと子どもたちは直感的に悟っています。

輪島の漆器は英語で“Japan”のJを小文字にして“japan”³¹です。JAPANをどういう方向に導こうとしているのかという老若男女に夢を与える指導者の声明を民は待ち望んでいます。

(3) ボランティア、メディア、地方行政への統制

a. 自助、自己責任を押しつけ助け合わない社会に

近年、災害地では、「不要不急」の人間(政治家、ボランティア、マスコミなど)が避難所、被災地に入ることに大きな批判が巻き起こっています。「混乱した状況ではメディアもボランティアも現場では迷惑」という空気が日本列島を覆いました。悲しいのはサラリーマン組織である大手メディアです。ネット民に批判されるのが怖くて現地への初動が遅れました。ですから、6日ぐらいから生の情報を発信する緒に就いたのです。理由として、3つあると筆者は考えます。

一番目に、第1次能登半島地震ボランティアで「無人となった家に入り込み、金品を盗んだり、掃除、片づけ、運搬を手伝ったものの代金を要求する不埒な輩もすでに3日に遠方から来ていた体験を聞きました。弱みにつけこんだ詐欺まがいがあつたと耳にしました。すると被災者もよそ者に疑心暗鬼になります」³²という様に、犯罪行為があるかもしれません。しかし、実際には、東日本大震災の福島県双葉郡富岡町の西願寺の吉田信住職が言われるように、「金品目当ての泥棒はどこの家に何があるかわかる人でなければ押し入らない」し、コンビニのレジをミニ重機で持ち出すのも他府県の人にはできないよ」と。そのことは東北ボランティアに149回訪問している中で、住職達の言葉は真実であると思いました。二番目に、災害の度に、情報統制への準備として、永田町、霞ヶ関の命令系統を確立し、戦時下体制の備えとしようとしているとしか思えません。「緊急事態条項」は災害現場で有害と唱える津久井進弁護士は「国のトップに権限を集中させると、現場は『指示待ちモードに陥って思考停止となる』と警鐘乱打します³³。

三番目に、ボランティアの本来の「自主性」という精神態度を奪い、中央集権に従順な民として、常にコントロール下におく手法が散見されます。

能登半島地震ボランティアに対して、神戸大名名誉教授の室崎益輝氏(79歳)は以下のように指摘されています。「初動から公の活動だけではダメで、民の活動も必要」、さらに「道路が渋滞

³¹ Chinaも小文字ではじめると、陶器 china。

³² 拙論「1次能登半島地震ボランティア報告」(2024年1月6日4頁)。

³³ 『朝日新聞』(2016年4月5日付)。『憲法に緊急事態条項は必要か』(永井幸寿 岩波書店 2016年6頁)。

するから控えて」ではなく、「公の活動を補完するために万難を排して来て下さい」と言うべきだ、と³⁴。そうです。「公」からは是認される専門家、有資格者でなければ、ボランティアでなければできないとするなら薄ら気味悪いメンバーになります。喜怒哀楽がわからないロボット、AI、サイボーグになるでしょう。ボランティアはプロフェッショナルとかアマチュアかで分けるものではありません。

「被災地 NGO 協働センター」の村井雅清顧問は言われました。「孤立集落が点在する今回こそ、阪神大震災の時のように、一人一人に寄り添う細やかな支援が必要だ」³⁵、と。村井氏は、1月2日に石川県七尾市に入っておられました。村井氏を導いた「被災地 NGO 協働センター」の草地賢一[1941-2000]初代代表は、強調していました。「行政だけが『公』を担うのではなく、『民』が主体性をもって、福祉、環境、人権などの解決にあたり、政策提言をしていく突破口が開かれたのです。阪神・淡路大震災が『ボランティア元年』と言われる所以です。『公共の福祉』とは『他人の人権』を意味するという理解が従前の通説です³⁶。しかし、本来、行政が担当するサービスまでがボランティアに丸投げされたり、ボランティアが行政の下請け、御用聞き、補完になってしまう危険性と背中合わせで来たのです³⁷。行政や社会福祉協議会による手厚い支援が続きますと、ボランティア本来のアイデンティティである主体性・公共性・無償性がトーンダウンし、受身の活動になってしまいます³⁸。草地牧師のキーワードを心に刻みたいものです。「いわれなくてもする、いわれてもしない」、と。

b. 珠洲になくてよかった 志賀(しか)は止まっていたよかった

2011年7月、神戸国際支縁機構の初代石巻支所長である阿部捷一[1942-2017]氏と牡鹿半島の教育関係者を訪問するヒアリング調査をしました。新免貢理事([1953-]宮城学院女子大学名誉教授)、佐藤金一郎[1941-]氏が途中で加わり、計4人で巡りました。女川原発の反対運動を熱心にされた方々の無念さを聞きました³⁹。

1975年に「珠洲原発」建設計画の魔手が中央から忍び寄りました。能登半島北部に北陸電力・中部電力・関西電力の電力3社が、中部電力は珠洲市北東部三崎町で、北陸・関西電力は北部の高屋町で関電を中心に共同開発ののろしをあげました。それぞれ100万kwクラス原発2基を設け、2014年から運用する青写真でした。珠洲方式と言われる地元から誘致する市議会議員たちの結束がありました。市議会全員協議会が国、県に適地可否調査を要望します。1989年の市長選では壮絶な原発反対運動のうねりが起こりました。激しい原発賛否の議論が戦われました。珠洲市民の28年に及ぶ反対運動のおかげで、2003年に推進側は断念しました。仮定ではありませんが、もしあの時、着工になっていたら、今回はフクシマのメルトダウン(炉心溶融)どころですまされない大惨事を招いていたことは必定でした。

女川原発を襲った東日本大震災の被害は秘密のベールに覆われています。東北電力女川原発の技師であった今野寿美雄[1964-]氏は、女川も能登の志賀^{しか}原発も半島にあるから逃げられないと話しました。古賀原発は3.4メートルの隆起、女川は80センチの沈下でした。ヒロシマ、ナガサキ、フクシマは呻いています。同じ過ちを犯さないように声を上げねばならないでしょう。

³⁴ 『朝日新聞』(2024年1月14日付)。

³⁵ 『中日新聞』(2024年1月17日付)。

³⁶ 『阪神大震災と国際ボランティア論』草地賢一の歩んだ道(『草地さんの仕事』刊行委員会 エピック 2001年98頁)。

³⁷ 『ボランティア精神を語る』(草地賢一 神戸医師協同組合発行・神戸医協ニュース 1997年5月1日~12月1日号連載)。

³⁸ 拙論「キリスト教とボランティア道—水平の〈運動〉から、垂直の〈活動〉に—(宗援連 東京大学 15-22頁)。

『日本近代文学と聖書』(大田正紀 一麦出版社 2023年16頁)。「最後の一句」(1915)に見られるように、「官」と「民」の対立は(森)鴉外文芸の1主題をなすものです。無実の信徒を虐殺した「官」の非道もさることながら、傍観するしかなかった「民」の記憶が、終生鴉外の精神的外傷(トラウマ)として残っているように思われます。

³⁹ 拙論「牡鹿半島聞き取り調査(5)」<https://kisokobe.sub.jp/proposal/1070/>。WEB「牡鹿半島」。

c. 計千食分の炊き出し 輪島

第1次と同様に、国道249号線を経て、現地に向かいました。1月16日、3日目は輪島市役所の依頼で千食の炊き出しに10人が仕えました。医師、看護師を含む3人の医療班は炊事、炊き出し、配膳にも積極的に動かれました。輪島市役所の方々は自宅の倒壊にもかかわらず、昼夜分かたず献身的に避難所、配給、2週間以上、水が出ない陸の孤島で献身的でした。阪神・淡路大震災の時、まだ生まれていなかった在日朝鮮人⁴⁰許匠(ホ・ジャン 25歳)さん、周悠植(チュ・ユシツ 31歳)も運転を交替し、亀裂があつたりする悪路を運転しました。雪が降る輪島市では避難所「ふれあい健康センター」や輪島中学校で炊き出しに取りかかりました。大鍋を使って調理し、豚汁やカレーライスなど計千食を被災者に振る舞いました。自宅で被災した方、保育園の方たちもふれあい健康センターにやってきて、温かい食事を持ち帰り、喜ばれました。中日新聞社の服部壮馬記者、大橋脩人カメラマンは次のように報道しました。「『阪神では140万人のボランティアが集まった。恩返しをしたい』と⁴¹。2歳で被災した在日朝鮮人の周悠植(チュ・ユシツ)さん(31)＝兵庫県尼崎市＝も参加し「ボランティアの助けがあって今がある。次は自分たちが助けたい」、と毎日新聞社の安西李姫記者も2回取材し、全国に報道しました。10人が家族になり、被災者に温かい野菜カレーを運びました。寒い中、列を作って並ばれておられるので、「寒いでしょう」と声をかけると、「いえいえ、みなさんこそ寒い中、がんばっておられるので、……温かいモノをいただけるだけでもしあわせです」と喜ばれました。

毎日新聞
2024年(令和6年)1月17日



避難所となっている「輪島市ふれあい健康センター」で、豚汁とカレーを作るボランティア団体「神戸国際支縁機構」のメンバー、兵庫県輪島市河井町で16日

神戸から恩返し 輪島で炊き出し

能登半島地震で被災した石川県輪島市の避難所となっている市ふれあい健康センターで16日、国内外の災害被災地などで活動するボランティア団体「神戸国際支縁機構」(神戸市垂水区)が炊き出しを行った。17日に発生から29年を迎える阪神大震災の際、全国のボランティアに助けられた「恩返し」という。代表の岩村義雄さん(75)は「輪島の朝市通りの火災は阪神大震災のようだった。今こそ助け合いたい」と話した。20～70代のボランティア10人が

正午過ぎに豚汁とご飯約300食を作り、熱々のまま避難所の中に届けた。避難所と自宅を行き来する近所の大谷隆重さん(85)は「地震が起きてからはめったに温かいものを食べられない」と笑顔だった。ボランティアの周悠植さん(31)＝兵庫県尼崎市＝は「阪神大震災当時は2歳だったが、家族から『全国のボランティアの皆さんが炊き出しをしてくれてうれしかった』と聞いている。自分たちにもできることをしたい」と意気込んでいる。【安西李姫、写真も】

『毎日新聞』(2024年1月17日付)。

北陸中日新聞
2024年(令和6年)1月17日

炊き出し

外の気温が急降した。避難所運営を平吉にし、教職員などとも向かい合える時間をくつりたい。29年前のお礼の意味を込めてこころをこめた。

ボランティア団体「神戸国際支縁機構」(神戸市)も16日、輪島市の輪島中学校で炊き出しをした。

兵庫県在住の10人が、避難所で大鍋を使って調理し、豚汁やカレーライスなど計千食を被災者に振る舞った。団体の岩村義雄代表(75)は「阪神では140万人のボランティアが集まった。恩返しをしたい」と話す。2歳で被災した在日朝鮮人の周悠植さん(31)＝兵庫県尼崎市＝も参加し「ボランティアの助けがあって今がある。次は自分たちが助けたい」と話した。



避難所の前で炊き出しをする神戸市から来たボランティアスタッフら＝16日、石川県輪島市河井町で

『北陸中日新聞』(2024年1月17日付)

⁴⁰ 代表岩村義雄は「日朝友好兵庫県民の会」の常任委員。

⁴¹ 『北陸中日新聞』(2024年1月17日付)、『中日新聞』(2024年1月17日付)。

阪神大震災で被災し、2014年に著書「大災害と在日コリアン」を出版した在日コリアン3世の高祐二さん(57歳)＝兵庫県加古川市＝は、「非常時に外国人が悪者にされる風潮は今も残っている。民族を超えて助け合わないと災害では生き残れない」と訴えられました。

高さんは小学生だった70年代、クラスの4分の1は在日コリアンだったが、高さんを含め、ほとんどが日本名を名乗っていました。「お前チョーセンやろ」などの言葉が飛び交う教室は、「日本人のふりをしないと生きていけない世界だった」と著書の中で証言しておられます。

しかし、ボランティアに国籍、資格、性別は問いません。神戸国際支縁機構はハンディキャップがあろうが、高齢であらうが、路上生活者であらうが、無に等しいメンバーたちで構成されています。幼い時からヘイトスピーチ(憎悪発言 hate speech)の対象と白眼視されてきた在日朝鮮人も仲間として加わっています。苦難と闇が断ち切られるのを一緒に味わいましょう。

一人一人を幸福にするために最後に残るのは、タコ(他己)、つまり「愛」です。



医療班と事務局長 2024年1月16日 野菜カレー 好評でした。

< 結論 >

関東大震災[1923 年]では 190 万人が被災しました。10 万 5 千人余が死亡あるいは行方不明になりました。その際、朝鮮人が井戸に毒を入れたというデマが流れました。その結果、悲劇が生まれました。「X(エックス)」「(旧 Twitter)や、生成 AI(人工知能)により人為的に画像を作れる時代、偽情報が拡散します。1 月 1 日午後 4 時 10 分頃に石川県珠洲市を襲った津波についても東日本大震災の津波の動画、実在しない地名や偽の被害情報を記載し救助要請が拡散しました。

第 1 次では海洋から支縁物資を運ぶことを思いつきました。しかし、津波、隆起、港の情報を把握していなかったからです。流体化、隆起、インフラストラクチャー(infrastructure, 略称・インフラ)の弊害は深刻です。一方、輪島の人々の中には海が下がっていったという感覚もあります。珠洲市と異なり、輪島市は津波の影響が少なくなったという意外な面がありました。

つまり日本列島は災害を被る凶と必ずしも判断しないで、デメリットをしたたかに活用する創造的なアイデアを考えられないでしょうか。無から有が生じるようにできることを祈ります。

河川⁴²にしても本来蛇行して山から流れてきたものです。毎年多量の雨によって増水し、河岸を越えて田畑に流れ込みます。すると山の腐葉土など養分を肥料として大地を吸い込むのです。あたかも深呼吸するかのように栽培している農地にミネラル分を得てきました。近代日本はコンクリート製の河岸、川底、砂防ダムなどによって養分を遮断してしまっています。本来、災害は自然を形成する重要な営みでもあります。人間はそうした地形、河川、プロセスを不遜にも倒錯行為によって無価値にしてしまった罪があります。だから港が陸地化、地盤隆起、海底露出というグロテスクな光景を見せつけられました。近代技術による強靱な工法で凝りもせず挑戦しようと権力者はあせります。自然と共生するのではなく、征服し、植民地化し、地球を損なうのです。

もちろん愚行権を何人たりとも犯さないことはありません。他者や社会全体から見て、愚かな行動をする自由があつてしかるべきです。多少、迷惑をかけられてもそれは甘受するのです。「すみません。迷惑をおかけします」という卑屈な姿勢から、「お世話になります。ありがとうございます」と言える社会に。「受縁力」もいるでしょう。ただ、一番駄目なのは他者に危害を加えることです。視座を変えると、他者への危害とは、人間だけを相手に考えません。北陸は仏教王国です。「草木国土悉皆成仏」⁴³のスピリチュアリティを超教派で取り戻すのです。自然を破壊する行為を点検しましょう。ダム建設、軍需産業、原発は典型と言えます。

30 年後、50 年後、100 年後の日本はこうあるべきだと、自由に話し合える「場」を被災地から始められることを期待します。

⁴² 拙論『福音と世界』誌(新教出版社 2022 年 12 月号 30-35 頁)。

⁴³ 草木や国土のような心識をもたないものも、すべて仏性を有するので、ことごとく仏となりうるといふ。田中正造[1841-1913]議員、パウル・ティリッヒ[1886-1965]も同じ価値観を聖書から発題しています。